

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校での現状を踏まえ、2項目の重点課題を設定して取り組んだ。各重点項目の目標についてはおおむね達成することができた。取組の概要と評価は下記のとおりである。

(1) 学び合いを通して伝え合う力を高め、主体的に行動できる児童を育てる支援の在り方

昨年度、児童全員で清掃活動に取り組んだが、活動の振り返りで、課題と次の目標を発表しても伝わっていない友達がいることに、気付いていない児童がいたり、同じ場所や流れで活動したため、内容が固定化してしまったりなどの課題が見つかった。そこで今年は、集団遊びの場を設定し、①自分の伝え方の課題を見つけるグループ②自分の思いを友達に伝える場面を盛り込み、やり取りに変化をもたせるグループに分かれて実践した。集団遊びとして1学期はかくれんぼ、2学期はフルーツバスケットを行った。活動を通して①グループではスライドや具体物を使い、手話や身振りでわかりやすく伝えようとする姿が見られ、伝わっているかについても確認もするようになった。②グループでは、児童や友達の思いを伝えたり、聞きとったりすることで、児童自身が次の遊びの場で自分の思いを伝える等、児童の行動変容につなげることができた。

(2) 発達段階に応じた指導を通して規範意識を育み、主体的に「きまり」を守ろうとする生徒の育成

本校では、生活経験が乏しいためか相手の気持ちを汲み取ることが苦手だったり、感情のコントロールが難しかったりする児童生徒がいる。そのため、何気ない会話からトラブルになるケースが多い。また、「きまり」を守る意識の低い児童生徒がおり、乗車待ちの列に割り込んだり、校内で大声で話をしたりする児童生徒もいる。そこで児童生徒の規範意識を高めるため、学部集会や外部講師を招いた講習会を行ったり、規範意識に関するアンケートを実施したりした。集会や講習会ではルールやマナー、基本的な生活習慣などの指導を行うことができた。規範意識調査では、調査後しばらくは生徒それぞれが課題を意識する様子が見られた。しかし、日ごろの行動の振り返りに主眼を置いた調査だったため、集計結果を生徒にフィードバックするには至らなかった。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 児童の成長の姿を自分自身、友達、教員の視点から具体的に挙げて成果と課題としてまとめ、次年度につなげたい。今後も、学部全員が関わる活動を設定し、児童同士の伝え合う力、相手に分かりやすく伝えようとする力を高め、主体的に行動できる児童を育てたい。
- (2) 様々な障害特性のある生徒が共に活動する中で、互いを認め、トラブルなく過ごすために日頃から支援や指導を引き続き行い、生徒間のトラブルをなくしていきたい。トラブルの原因が、学校内だけではなく、家庭内や校外などにもあるため、生徒について全教員が共通理解して指導をしていくことが大切である。外部の諸機関とも連携して指導に当たるとともに、ルールやマナーに関する講習会や集会を通して指導を継続していきたい。

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和6年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン (小学部) - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	学び合い活動を通して伝え合う力を高め、主体的に行動できる児童を育てる支援の在り方を探る	
現 状	昨年度は、2つのグループに分かれて清掃活動に取り組んだ。Aグループでは、振り返りシートを使って振り返りを行うことで、課題に気付き、次回に頑張ることを考えて発表し、課題を解決するために友達と声を掛け合う姿が増えた。しかし、複数の友達に一齐に話をする際、注目して話を聞く状態にあるかを確認せずに話すため、伝わっていない友達がいても気付かないということがよくあった。Bグループでは、スケジュール表を使うことで見通しをもち、主体的に活動を進めることができるようになり、「ありがとう」「お願い」「できた」「終わった」等、簡単なやりとりや報告ができるようになってきた。しかし、同じ流れ、同じ場所で活動するため、内容が固定化してきている。 今年度は、学部全体で集団遊びの活動を行う場を設定する。Aグループでは、みんなが楽しく活動できるように計画や振り返りの場を設け、活動の内容や進め方について話し合う活動を通して、自分の伝え方の課題を見付けることができるように支援していく。Bグループでは、活動の中で自分の希望を友達に伝える場面を盛り込み、やりとりに変化をもたせていきたい。児童が伝え合い、活動を楽しんだり児童同士で課題を解決したりする経験を積み重ねていきたい。	
達成目標	集団遊びの時間を設ける。	個々の児童の目標や支援の在り方について協議する。
	学期8回以上	年間5回以上
方 策	・ 昼休みの時間を利用して定期的に全員での集団遊びの時間を設ける。 ・ みんなが楽しく活動するために、児童が集団遊びの内容や進め方を話し合ったり、振り返りを行うことで修正して次の活動に生かしたりすることができるように支援する。	・ 部会研究を通して、児童の実態と目標について再確認する。 ・ 児童が自ら課題を見付け、一人でまたはお互い協力して課題を解決するための支援や場面設定について協議する。
達 成 度	100% (1学期9回、2学期16回)	100% (7回)
具体的な取組状況	・ 集団遊びとして、1学期はかくれんぼ、2学期はフルーツバスケットを行った。 ・ Aグループでは、話合いの始めに視点を確認したり、みんなの振り返りシートから課題を見付けるよう働き掛けたりすることで、主体的に話合いを行うことができた。また、遊びの進行の際「見て」と言って注目を促してから話したり、スライドや具体物を使い、手話や身振りをういて分かりやすく伝えようとしたりするようになってきた。 ・ Bグループでは、振り返りの時間等に「○○さんと一緒にしたかった」等、児童の思いを聞き取ったり、友達の思いを伝えたりすることで、次の遊びの場で思いを伝える支援ができ、児童の行動の変容につなげることができた。	・ 部会研究を通して、集団遊びでの児童の様子から、児童がどんな思いをもっていたか、児童に考えてほしい場面はどこだったか、児童の話合いではどんな内容を取り上げるとよいかなどについて話し合った。また、必要な支援や児童に任せることについて話し合った。 ・ 児童が目当てをもって活動する(実践)→振り返る→改善する(話し合う)サイクルで行うことで、主体的に活動することにつながることが分かった。
評 価	A	
学校関係者の意見	・ 児童の成長を具体的な項目として挙げ、1年ごとにできるようになったことを明確に見える化し、保護者に伝えてほしい。 ・ 成長をはかる視点として、自分から、友達から、教員からがある。友達に認められることは子供にとって自信につながり、取り入れるとよい。 ・ 重複学級の友達とのコミュニケーションが育つことは子供たちにとってよかったと思う。今後も取組を継続してほしい。 ・ 異年齢集団での言語活動を伴う体を動かす活動を今後も継続してほしい。	
次年度へ向けての課題	・ 児童の成長の姿を自分自身、友達、教員の視点から具体的に挙げて成果と課題としてまとめ、次年度につなげたい。今後も、学部全員が関わる活動を設定し、児童同士の伝え合う力、相手に分かりやすく伝えようとする力を高め、主体的に行動できる児童を育てていきたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン (生徒指導部) - 2 -		
重点項目	生徒指導	
重点課題	発達段階に応じた指導を通して規範意識を育み、主体的に「きまり」を守ろうとする児童生徒を育成する。	
現 状	生活経験が乏しいためか相手の気持ちを汲み取ることが苦手だったり、自己の感情のコントロールが難しかったりする児童生徒が多くみられる。そのため何気ない会話からトラブルになったり、相手の気持ちに構わず自分の楽しいことを共有させようと無理強いしたりするなどの様子が見られる。また、校内で大声で騒いだり、周囲の状況を理解せずに乗車待ちの列に割り込んだりと友達もやっているからいいだろうと「きまり」を守る意識が低い児童生徒が多い。	
達成目標	外部講師による講話の機会も含め、マナーやルールについて考える機会を設定する。	講演会終了後にアンケートを実施し、規範意識、マナーの理解度を測り、今後の生徒心得の作成の見直しを図る。
	5回	2回
方 策	・学部集会や、外部講師を迎えた講習会を行うことで、基本的な生活習慣や、普段から守るべきことを確認し意識することができるようにする。 ・講習会等を通して自己を振り返る機会をもつ。	・生徒心得、校内規定等を見直し、規範意識に関するアンケートを実施し、各自の「きまり」を守る意識を測り、課題を見つけ目標を設定する機会をもたせる。 ・アンケートの結果や講演内容を参考にして、生徒心得や校内規定等を見直しを行う。
達 成 度	5回(100%)	2回(100%)
具体的な取組状況	・1、2学期末の学部集会(2回)、臨時集会(1回)、ネットトラブル防止講座、消費生活講座などの機会に、様々なルールやマナー、基本的な生活習慣など注意や指導を行うことができた。	・生徒心得の変更点やルールを守ることの大切さを集会で生徒に伝えた。その後、規範意識調査(100問チェック)を7月と10月の2回実施した。調査方法では一問ずつ読み上げ考える時間を取りながら行ったことで自分の行動を考えながら記入する様子が見られた。調査後しばらくの間はそれぞれが課題を意識する姿が見られた。今回は日頃の行動の振り返りに主眼を置いたため、集計結果をどのような形で生徒一人一人にフィードバックするのか明確にすることができず目標の設定まで至らなかった。 ・生徒心得、校内規定について、服装に関する規定、自転車通学に関する規定、スマートフォンに関する規定など見直しを行った。
評 価	B	
学校関係者の意見	・ルールやマナーを知らなければ講話などで教えていくことが大切であり、知っているのに守らない場合は心理的な背景など様々な角度からアプローチしていく必要はある。 ・規範意識調査(100問チェック)の質問項目一つ一つの行動が望ましい行動なのか望ましくない行動なのかを理解していることが大切である。 ・外部講師による指導は、資料などひきつけられるものがあり、活用をしてほしい。 ・保護者会などでもスマートフォンや、インターネットの活用について話をしてほしい。 ・アンケートを通して一人一人の困りごとを見つけることにつながれるとよいのではないかな。 ・教員による休み時間などの見守りは安心できるので継続してほしい。	
次年度へ向けての課題	・中学部、高等部での生徒間のトラブルについては、様々な障害特性をもつ生徒が共に活動する中で互いを認め、トラブルなく過ごすため日ごろの生徒への支援や、指導を引き続き行っていくことが必要である。生徒間のトラブルは少なくなっているものの、一人一人の問題行動には細かい配慮が必要な場面が中学部、高等部ともにあった。学校内だけではなく、家庭内や校外など、教員の目が届かないところでの問題への対応に苦慮することが今後も予想される。その際に一部の教員だけではなく全教員が共通理解して指導をしていくことが大切である。また、外部の諸機関とも連携して指導に臨みたい。ルールやマナーを守ることに关しては、講習会や集会を通して指導を継続していく。 ・生徒心得などの校内規定は毎年見直ししていくことが必要である。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)